

Theory in social psychology: seeing the forest and the trees.

社会心理学における理論: 森と木を見ること

Trope, Y (2004) Theory in social psychology: Seeing the forest and the trees. *Personality and Social psychology Review*, 8(2), pp.193-200.

Rep. 小森めぐみ¹.

ABSTRACT

社会心理学者が説明しようとする現象—人々がどのように社会的状況に反応して考え、感じ、行動するか—は、豊富で多様性に富んでいる。よって、説明力や実証的な範囲と比較した時のモデルの単純さは社会心理学の理論に欠かすことができない。統一化された概念をもつことで、より狭いモデルを統合し、矛盾を解決し、特定の現象に関する高次の予測ができる場合に、モデルは高い説明力をもつ。本論では、説明力を多様な社会的探求の側面（モデル化、導出、観察、評価、決定）と関連付けた後、著者たちが社会的判断と意思決定の領域で行っている二つの理論ベースのモデルの判断基準として論じる。

- ・ 科学研究はモデル化、導出、観察、評価、判断の5側面にわかれている
- ・ まずこの5側面について述べた後、5側面とモデルの説明力について述べる。そしてこの基準を著者たちのたてたモデルに適用して、検討する。

Theory-based scientific inquiry

The facets of scientific inquiry

- ① モデル化
 - ・ ある領域で生じた現象を抽象的な概念で構築するプロセス
 - ・ 理論的なモデルは小規模で首尾一貫した基本的な要素と要素同士の関係を用いて、複雑な現実を単純化する。例) Zajonc(1976) 知能の発達は、子供自身を含む子供の家族の精神年齢に影響される
- ② (仮説や予測の) 導出
 - ・ 論理と数学の規則に基づき、モデルから仮説や予測を導出する
例) 子供の知能が家族の精神年齢の平均に影響されるのであれば、子供の知能の発達率は子供の生まれた順や家族の大きさと反比例すると予測できる
- ③ 観察
 - ・ 決まった手続に従って、モデルの予測に基づいたデータを収集する
 - ・ その手続に従う際には、データに含まれる観察についての理論的な仮定が必要となる
 - ・ つまり、どんな観察方法を用いたとしても、そこにはモデルと関連した新しい仮定がある
例) Zajonc(1976)での知能とは、standard intelligence test が測定したもの
- ④ 評価
 - ・ データと予測を比較し、一貫性を統計的に検討する
- ⑤ 判断
 - ・ データと予測の一貫性に応じて、モデルを評価する

¹ 一橋大学大学院博士課程

Explanatory Power

- ・ 理論=モデルの評価基準はいくつかある
 - 一貫性：モデルの仮定からは矛盾する結論は導かれないということ
 - ヒューリスティックな価値：モデルがその領域での高次の予測を可能にするか
 - 精度：モデルから予測を導出することが簡単かどうか
- ・ モデルは十分条件にしかないが、モデルとデータは決定論的なので、モデルが真であれば、予測されたデータが観察されなくてはならない
- ・ 一貫するデータの量が多く、モデルに理論、方法的な仮定が少ないほど、モデルの説明力は高い
 - モデルに一致/不一致のデータはどちらもモデルの説明力に影響する
 - 高い説明力を持つモデルは小さいモデルを統合し、より広範で具体的な予測を導き出せる
- ・ 説明力は儉約基準 (criterion of parsimony) と似たものだが、モデルの単純さと予測の広さ、複雑性、具体性の両方に注目している点が違う

Dual-Mode Attribution Process

- ・ 古典的な帰属研究は、合理的な推論モデルから導き出された推論ルールで帰属推論を説明
- ・ 一方、規範を侵犯するような推論の存在も指摘され、連合や知識の活性化によって、簡単だが論理的には歪んでいる印象形成が行われることも示された
- ・ 二過程理論は規範ベースの理論と連合ベースの理論の統合をはかった (e. g., Trope, 1986)。
- ・ 特に Trope (1986) は属性推論を同定段階と推論段階にわけた
 - 同定段階：行動エピソードに含まれる属性関連 (人、状況、行動カテゴリー) の情報を表象
 - 推論段階：個人/状況要因での同定された行動の説明を評価
- ・ 二過程モデルの予測では、状況要因は同定段階と推論段階で異なる方向の影響を与える
 - 同定段階：状況要因は行動を明瞭にするため、明瞭になった行動は対応属性の推論を強める
 - 推論段階：状況要因は行動の代替説明となるため代替説明を受けた行動は属性推論を弱める
- ・ 前者は連合プロセス、後者は分析的プロセスを経て行われるため、影響する要因は異なる
 - 同定段階：行動の曖昧さ、状況や行動情報の順序や一時的なつながりが影響
 - 推論段階：認知資源、正確性動機、状況情報の妥当性が影響
- ・ 二つのプロセスの組み合わせると、状況要因の影響には4パターンが考えられる。
 - 連合プロセスの阻害、分析プロセスの生起⇒状況に応じた割引が発生
 - どちらかの条件が満たされない場合⇒Null effect
 - どちらの条件も満たされない場合⇒割引の逆転

二過程モデルの評価

- ・ 二過程モデルは、状況を連合手がかり・代替説明の両方で考えることで、割引効果と逆割引効果の両方を説明することができる ⇔ 古典的なモデルは割引の逆転を説明できていなかった
- ・ 二過程モデルは古典的な規範ベースのモデルと、知識の活性化モデルを統合し、新予測を導いた
- ・ また、二過程モデルは状況要因が焦点である場合でも検討可能。この場合には、個人の要因が行動の同定に貢献したり、代替説明として機能する (see Trope & Gaunt, 2000)
- ・ 二過程理論は現象、認知、神経化学のどの分野にもあてはまり、他の社会的認知の領域 (説得 ; Chaiken, 1980; Petty & Cacioppo, 1981、態度アクセス; Fazio, 1986、対人知覚 ; Brewer, 1988; Fiske & Neuberg, 1990; see review by Smith & DeCoster, 2000) にも応用可能

Construal-Level Theory

- 近い未来と遠い未来のための選択をどのように下すかという問題は、多くの研究者が扱ってきた (see Loewenstein & Prelec, 1992; Loewenstein, Read & Baumeister, 2003)
- 結果の価値は、結果からの時間的距離感が増すにつれて割引かれることがわかっている
- これまでの研究では、割引の程度に影響する要因が検討されてきた。
 - 感情関連の結果は認知関連の結果と比べて時間の経過による割引が大きい (Loewenstein, 1996; Loewenstein, Webe, Hsee, & Welch, 2001; Metcalfe & Mischel, 1999)
 - ネガティブな結果はポジティブな結果と比べて時間の経過による割引が大きい
 - 行動経済の研究は、結果 (報酬の大きさ) の影響を指摘 (Green, Meyerson, & McFadden, 1997)
 - 結果に時間的に近づくほど割引率は大きくなる (Ainslie & Haslam, 1992, 1994; Kirby & Herrnstein, 1995; Loewenstein & Prelec, 1992; Rachlin, 1995)

Construal Level Theory (CLT)

- Trope and Liberman (2003) は、時間関連の割引要因のはたらくメカニズムを検討
- CLT では、時間的距離が個人の将来についての判断に及ぼす影響は、選択肢の解釈 (construal) の変化を経ていることを主張。遠くの未来は高次の解釈がはたらくとした。
 - 高次の解釈：脱文脈的な表象で入手可能な情報から重要なところを引き出したもの (例) 引越しは新しい生活のはじまり
 - 低次の解釈：より文脈に特化した表象で非スキーマ的 (例) 引越しは荷物のパッキングと移動

CLT の説明力

- CLT では、解釈のレベルの違いは評価の違いにつながることを主張
- CLT によれば、遠い未来ほど高次の解釈がはたらく。よって
 - 低次の解釈と連合する価値は、近い未来の評価の際により顕著
 - 高次の解釈と連合する価値は、遠い未来の評価の際により顕著 であることが予想される
 - 時間の経過による割引は低次の解釈と連合している価値でのみ見られ、高次の解釈と連合している価値では逆の効果、すなわち時間の経過による割増が見られると予測する
- これらの解釈レベルに応じた時間の経過による好みの変化は、認知/感情、ポジティブ/ネガティブにかかわらず見られる。

時間の経過による割引理論と解釈レベル

- これらの知見は、これまで時間による割引理論で説明されてきた要因がその場の解釈を経て影響していることを示す
- 感情経験は具体的であることが多い (Metcalfe & Mischel, 1999; Sloman, 1996) ため、判断状況に対して低次の解釈を行う。それにより、感情的な価値は時間の経過とともに大きく割引される
- また、ポジティブな結果は目標に関連していて、高次の解釈の一部といえるが、ネガティブな結果は状況によって与えられたコストであり、低次の解釈の一部
- この解釈の違いが、conflict theory で言われていた、遠い未来に及ぼすポジティブ (vs. ネガティブ) な結果の影響力の大きさを説明する
- 解釈レベルは magnitude effect (Thaler, 1981) や遅延報酬の割引への影響を説明
- CLT は自己制御や予測、心理的距離の研究にも意義ある知見を提供する

自己制御

- ・ 自己制御の核は、現在を越えて自分の価値観にしたがって行為すること (Trope & Fishbach, 2000)。
- ・ CLT の観点でいうと、このような価値観は抽象的な知識構造であるため、近い未来よりも遠い未来の指針となる。人々にとってこのような価値観がアイデンティティの中心をなすのであれば、CLT では人々は自分の価値観は近い未来よりも遠い未来において表現されると感じるだろう

予測の心理学

- ・ CLT は将来の出来事への嗜好性と予測の両方を一つの理論で説明できる
- ・ 予測する出来事が遠い未来のことであるほど、状況の解釈は高次のものとなる。ふつう、遠い未来のことは近い未来のことよりも確信がもてないはずだが、高次の解釈は抽象的で単純であるため、近い未来のことよりも確信をもって予想される (Nussbaum, Trope, and Liberman, 2003)

心理的距離

- ・ 解釈レベルは未来との時間的距離だけでなく他の距離次元にも応用できると考えられる
 - 過去との時間的距離、空間的距離、社会的距離...

Discussion: Seeking simplicity in complexity

- ・ おさらい：理論の説明力を検討することで、理論が評価できる。
 - 説明力はモデル化、仮説導出、データ収集、データの評価、モデル判断の5側面からなる
 - モデルの説明力の高さは単純さと扱う範囲の広さ。Simplicity in complexity が大事
- ・ モデル構築において重要なのは、現存する理論的アイデアを単一の概念の元に統合し、矛盾する知見を解決し、特定の現象を予測できること。
- ・ モデルの単純さと広さはあちらがたてばこちらがたたずの関係である場合も多いが、両方を一度に充足できる新しい原理を発見できる場合もある
 - Zajonc (1965) の社会的促進モデル、confluence モデル、CLT...
- ・ 動機づけられた認知の研究も単純さと広さを検討する上で興味深い
 - Kunda (1990) は directional 欲求を仮定
 - Kruglanski (1989) は構造欲求、fear of invalidity、望ましい結論へ到達する欲求等を仮定
 - Trope and Liberman (1996) は、修正された仮説検証の signal detection theory を提唱し、上記二つの理論を統合
- ・ このように、単純さと広さ是对立するものとは限らない。単純な理論が、他の理論ではできない予想を立てることによって、高い説明力を得ることもある。
- ・ そのモデルにしか立てられない予測は、理論の説明力を増すだけでなく、新しい実証的知見の発見にもつながる
- ・ Kurt Lewin (1951) は、優れた理論よりも実用的なものはないと述べたが、これは社会世界のデザインだけでなく、その発見についても言えることである。